



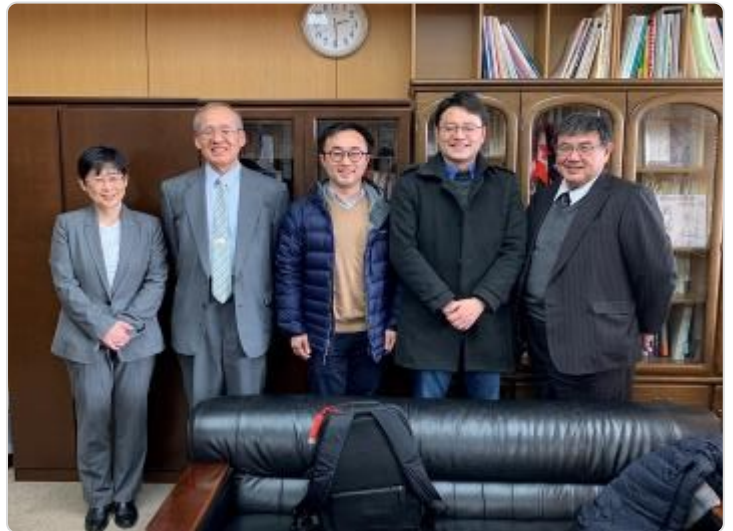
ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

中華人民共和国から 21世紀教育研究院執行院長の来日とへき地教育研究 「日本のへき地教育は中国の農村教育改革政策の参考になります」

中国研究者のへき地・小規模校教育研究センター表敬訪問

1月27～28日中華人民共和国の研究者である黄勝利先生（21世紀教育研究院執行院長（日本でいう国立教育政策研究所））及び劉靖先生（東北大学先端教育科学センター准教授）が、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターを訪問されました。黄勝利先生は、『中国教育改革戦略』の著者でもあり、中国教育政策立案のブレーンの一人です。

はじめに、釧路校の浅利祐一キャンパス長を表敬訪問されました。その後、へき研センターは、玉井康之センター長と川前あゆみ副センター長が対応いたしました。



釧路校 浅利祐一キャンパス長への表敬訪問

中国は日本のへき地教育研究成果から学びたい



へき地教育について聞き取る中国研究者

両研究者の目的は、中国において農村教育振興が大きな課題となっており、その振興のために日本のへき地教育研究から学びたいとのことでした。特に中国では、都市部と農村部の教育格差は激しく、農村の発展施策が国家政策としても重要になっているとのことでした。

一方の日本は、へき地においても学習到達度も高く、また子どもの逸脱行為等も低いのはなぜなのか、日本の農村・へき地の教育が発展したのはなぜなのかを、中国は研究しています。中国は日本のへき地教育から学びたいとのことでした。

中国の日本のへき地教育文献レビューの熱心さ

劉靖先生は現在、東北大学に勤務しており、すでに日本に16年間住んでいるため、北海道教育大学の『へき地教育研究』紀要やへき地教育研究資料・文献も熟読しており、そこから日本の授業指導方法、コミュニティ政策及び政策的な学力観の転換など、日本のへき地教育政策の特徴を研究しているとのことでした。

さらに少人数を対象にした複式授業などで、自ら学び考えたり議論したりしている授業方式を定式化していることに対して、少人数指導の新しい授業指導論の考え方であると捉えておりました。

また、黄勝利先生は、中国の政策として近年は農村振興に力を入れるようになっており、この国家政策の動きの中で、「中国21世紀教育研究院」の研究も活発になっていると述べておりました。そして、日本に唯一ある、へき地・小規模校教育研究センターの動向を注目しており、日本のへき地教育研究とへき地教育実践が客観的に持っている先進性をとらえ、中国に持ち帰りたいとのことでした。



混乱なく複式指導（わたり-ずらし）ができることに感心しておりました。



個別指導も充実できる少人数指導



個別指導を依頼するフラッシュカード

釧路市立山花小中学校への訪問-自律的な学習方法に感動しました。

その後、日本のへき地・小規模校を見学したいということで、釧路市立山花小中学校を訪問し、各学年の授業見学をした後、小中合同の全校給食に参加しました。



小中が一体となった全校給食に参加する研究者たち。小中の連携の在り方も学んでおりました。



複式授業では、子どもが間接指導の時に自分たちで辞書を持って調べたりしており、自分で学ぶ習慣があることに、驚いていました。



辞書を引ながら自立型学習を進める間接指導



自立型学習に必要な学習活動のフラッシュカード

また、時間の省力化を図るために、「課題」「めあて」「まとめ」などのフラッシュカードを用意しており、それを直ぐに黒板に貼れるようにしながら間接指導を効率的に進めている授業スキルに感心していました。単級校では子どもの板書時間をとるために、教師が書くことができますが、へき地複式校では「わたり」を行うために、時間を効率的に活用しなければならず、複式校では一般的に行われている教材です。さらにへき地校の縦割り班の活動など、リーダーの役割も明確にしていることなどにも感心していました。

学校と地域との関係について、日本のへき地校では、地域が学校に自分の子どもがいるいないにかかわらず、学校を地域が支えており、運動会・文化祭・農業祭など様々な行事を支援していることに、二人の研究者は感心しておりました。

生徒と教師が対話しながら進める中学校の授業運営についても、中国の研究者は感心しておりました。



日本では、歴史的にもへき地の教育振興策が確実に展開しており、地域的な条件・政策的な条件・経済的な条件の様々な客観的な要因を分析すると共に、へき地の教員養成をどのように行っているかについても、関心を示していました。それらの日本のへき地校の良さを歴史的にどのように展開してきたのかについても、二人の中国人研究者は引き続き学んでいきたいと語っておりました。

教室掲示と子どもの役割分担の仕方から、へき地小規模校の学級運営に感心しておりました。



お知らせ

『へき地教育研究』投稿について

北海道教育大学が刊行している紀要『へき地教育研究』は、北海道教育大学の教職員はもとより、日本教育大学協会へき地小規模校教育部門に加入している全国の大学教員が投稿できます。締め切りは毎年6月です。投稿をお考えの方は、それまでにご準備願います。

『へき地教育推進フォーラム』開催!!

3月7日(土)北海道教育大学 旭川校において、へき地教育推進フォーラムが開催されます。参加お申込みは、ホームページの『お申込みフォーム』をご利用ください。

URL : https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/forum/r01-02_edu_forum.html